

平成30年9月定例会 一般質問 (9月10日)

●自主防災組織の強化・連携を問う

災害時に町民の命を守る自主防災組織の役割の理解と、各町の自主防災組織同士の情報共有や連携が出来ないか

**答弁** 今後、先進的な取り組み事例を紹介できる勉強会の機会を設け、自主防災組織が相互に情報を共有できる環境整備を検討し市全体に波及させ防災力の向上をはかりたい。

●災害ボランティアセンター活用方法の周知を

「災害発生後に強いまち」を目指し、平時に市民へ災害ボランティアセンターの役割と活用方法の周知を行うべき

**答弁** 今後は、町会・町内会長会や民生委員児童委員協議会定例会などを通して災害ボランティアセンターの役割や災害時の利用方法について周知を行う。災害時における高齢者など情報が伝わりにくい方へはポスターやチラシの配布や地域での声掛けが重要と考え対応したい。

●外国人対応のワンストップ窓口を設置せよ

市内外国人住民のため、国際交流窓口などワンストップの窓口を設置できないか。

**答弁** 市民窓口課の相談窓口と市役所の各部署が綿密に連携することにより、外国人対応のワンストップ窓口、また外国人との相互交流の窓口として、市内在住の外国人の方々に対応したい。

●フードバンクとフードドライブの取り組みについて

市では食品廃棄物の減量と再利用からフードバンクやフードドライブを行う予定はあるか

**答弁** フードバンクやフードドライブについては、十分に食べられる食品が流通や消費に回らない現在の仕組みや風潮は何らかの手段で改善されるべきだと思う。県内の事例を参考に「能美市ならでは」のフードバンクやフードドライブの活動ができないか今後検討する。

●能美東西連絡道路に愛称を

能美東西連絡道路を寺井地区の方々が愛着を持って大切に守り使えるように、寺井地区中心部の道路区間を地域の方で新しい愛称を考え名付ける事はできないか。

**答弁** 現在整備中の寺井図書館前は、地域住民にとって愛着のある区間だと思う。寺井地区の皆様が寺井まちなか区間について愛称をつけて戴く事は、道路の愛護、普及や地域の活性化などにつながると思う。



能美市議会議員 たなか さくじろう  
田中 策次郎

絆 きずな

令和元年9月22日

市政報告会 特別版

一般質問この1年 平成30年9月議会～令和元年9月議会



令和元年9月定例会 一般質問 (9月9日)

●保育環境の充実について

●新規採用保育士には指導係として熟練した正規保育士と組ませる事ができないか

**答弁** 園長・副園長・長年勤務のパート保育士と組んでいる。本年度から熟練した保育士を「保育丸ごとコンシェルジュ」として子育て支援センターに配置し巡回保育により指導の強化を図っている。

●安定した保育の質を維持していくためにも保育士の増員と、パート保育士の勤務体系の見直しが必要ではないか

**答弁** 正規保育士については、近年退職者を上回る雇用を行っている。今後も正規職員の確保に努めていく。

●職員の休暇時の円滑な保育と、安全な保育を維持するために各保育園にフリー保育士の配置が出来ないか。

**答弁** 今後フリー保育士の配置を検討していく。

●園長が園の統括と事務作業を出来るよう副園長を担任から外し、園長と共に保育園の管理・運営の補助を行えないか。

**答弁** 粟生保育園で副園長のフリー化を試験的に行っており順次検討していく

●保育士の事務作業を軽減するために事務職員の配置が出来ないか

**答弁** 事務作業の効率化を図りながら、検討していく

●非常時マニュアルを全保育士が周知・理解する事が必要と考える。園での研修の機会をつくるべきではないか。

**答弁** 防犯訓練や避難訓練・アレルギー対応の研修を行っている。今後もマニュアルの理解に努める。

●障がいのある方の家庭への支援について

●介護者である親が亡くなった場合、残された障がいのある人に、市はどのような支援を行っているのか

**答弁** 地域生活拠点の整備のための支援を行っている。本人の気持ちや生活能力を勘案し支援を行っている

●介護の負担軽減や生活支援など、将来的にも安定した生活を送る事が

**答弁** できるような支援が出来ないか

国や市の制度で支援を行っている。今後も障がいのある方や介護者からニーズを聞き必要なサービスを行っていく

●市として障がい者家族の方の集いの場所をさらに増やし情報発信を

**答弁** 出来ないか。

現在市内にはいくつかの家族同士が話し合う場があり



平成30年7月22日～24日に岡山県真備町に豪雨災害ボランティアに参加



屋内の泥出し作業や、災害廃棄物の搬出運搬を行いました 前列の高齢の方はボランティアセンターを知らず連日の作業の疲労で入院していた



災害廃棄物の中に洪水マップが... 町中に災害廃棄物の山が 猛暑のため活動は午後2時までには制限されました

災害ボランティアセンター活用方法の周知と地域での役割を知る事が迅速な復興へつながります



出発前 説明 作業要望受入れ・地図係 洗浄ボランティア 冷タオルを渡す係 飲料を渡す係

## 平成30年12月定例会 一般質問（12月5日）

### ●自治会役員の女性参画推進について

地域福祉や防災上、女性自治会役員を増やす事が必要。女性役員の登用推進の補助金制度を創設出来ないか

**答弁** 役員は地域の事情や特性に応じて選任することが大切で、町会・町内会の中で適材適所を最優先に役員選出を行い、その結果女性が選任される事が自然と考える。

### ●政治分野における男女共同参画の推進

「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の施行を受け「環境の整備」や「人材の育成」等の取り組みを問う

**答弁** 男女共同参画社会の実現のため広報・啓発活動をさらに充実し意識改革の取り組みを丁寧に進めていく。  
現在取り組んでいる県立寺井高校生との共同学習は、人材育成の一環として今後も継続していきたい。

### ●ハザードマップ更新事業について

能美市ハザードマップ更新時に「液化化しやすさマップ」の記載をできないか

**答弁** 現在作成中の防災情報冊子に液化化しやすさマップについても掲載する予定で作業を進めている。

### ●災害時の学校と地域との連携を問う

子ども達が在学時に発災し地域の方々が避難してくる場合の対応など、地域や学校が合同で防災訓練を行い課題を共有する必要がある。災害時に避難所となる学校と地域や自治会との連携は出来ているか

**答弁** 実際に避難が必要となる際の学校と地域の連携については不十分な部分もある。一部の町会・町内会では学校を避難所と想定した訓練を行い、連携をとっている例もある。これらの前例を出前講座等で紹介していきたい。  
学校が避難所となる場合の対応は、学校・教育委員会と検討し、その後町会・町内会と協議していきたい。

### ●北陸新幹線延伸後の第三セクター鉄道の利便性確保を

新幹線延伸後の在来線の利便性確保のため、ダイヤの維持や運賃抑制を国・県に要望し、値上時には市の補助対策を。

**答弁** 国やJR西日本へは利便性の確保はもとより経営の安定化と安心安全な運行が損なわれないよう県や県内市町や関係団体と一体となって取り組んでおり、引き続き連携を強化し能美市民の利便性を確保していきたい。

### ●廃プラスチックの資源リサイクル

中国の受入れ中止により市の廃プラスチックの資源は、処理価格の上昇や受入れ停止などの問題は起こっていないか。

**答弁** 中国に輸出されるのは汚れているものや粗悪なものが多く、市で回収品は市民の協力のもと質が良く国内で適正にリサイクルされている。現時点では処理価格の影響がなく受け入れ停止となるような事態にはなっていない。

### ●先端大学や市民公募で環境活動の取り組みを

近年「マイクロプラスチック」に大きな注目が集まっています。市民一人一人のさらなる環境意識への向上が求められる。先端大学や市民からアイデアを公募し、市民が一体となり取り組める環境活動の推進が出来ないか。

**答弁** 先端大学と連携事業の一つとして取り組むことが出来ないか検討する。市内環境関連イベントに合わせ市民からの環境に対する活動のアイデアの募集やコンテストの実施を検討し、寄せられたアイデアを広報誌やホームページなどで公開していくことで市民からのアイデア公募による環境活動の推進につながると考える。

## 令和元年6月定例会 一般質問（6月6日）

### ●JDI人員削減での影響について問う

JDIの市内勤務者やJOLED能美事業所への影響は無いのか

**答弁** JOLEDの能美事業所は2020年の量産開始を目指して工場整備が進められており、計画に影響ないと聞いている。今後も企業側や県当局等と連携を密にして情報収集に努め、経過を見守り必要な対策を講じる。

### ●自然エネルギー推進について

温暖化への取り組みとして、市の使用電力の一部を自然エネルギー電力事業者からの購入の考えはあるのか

**答弁** 北陸電力からは、市にエネルギーコストやCO2削減への省エネコンサルタントとして提案など、高い付加価値の提供や災害時のライフラインの連絡体制など地元に着目した対応を受けており総合的に勘案し契約を継続している。

### ●ボランティアの若手育成について問う

能美市施策の中に多くのボランティア活動が活かされている。市のボランティア若手育成についての見解を問う。

**答弁** 小中学生に共生社会の理解を図るため、福祉と教育の連携のもと、人権意識や福祉意識を育てる心の教育をさらに充実させる。今後、パソコンや日曜大工など得意分野の人材バンクの登録を検討中で、ボランティア同士のマッチングや若い方の参画に期待をしている。

## 平成31年3月定例会 一般質問（3月11日）

### ●外国人の市内就業者の想定を問う

市内の外国人労働者の就業者の現況と、今後の職種や就業者数の想定は

**答弁** ハローワーク小松管内の外国人労働者数は平成30年12月末で2,646人。今後、関係機関及び近隣の自治体と情報交換に努め、庁内で設置予定の人手対策プロジェクトチームにおいて情報の共有を図っていく。

### ●国際交流協会発足についての思いを問う

平成25年12月議会に国際交流協会を作れないか、平成30年6月議会では外国人窓口を設置できないか質問を行った。外国人労働者の就労を考えるセミナーの概要と国際交流協会への思いについて問う

**答弁** 外国人労働者と地域の関わり方、企業の不安に対応できる企業の事例等を踏まえたセミナーを考えている。  
市国際交流協会は、市民と外国人が自然な形で交流し相互理解を深める事を目的とし、相談窓口の開設や国際交流サロンを開催し国際交流活動の推進を図る。

### ●新年度の男女共同参画推進施策を問う

男女共同参画推進の新年度に打ち出している施策と今後の男女共同参画推進への思いを問う

**答弁** 女性活躍の姿や場面は着実に増えていると思う。能美市の女性は、自分らしさを備え輝きを放ち活躍をしている。新年度、女性の活躍と人手不足対策体制を強化するため4つの新事業に取り組む。  
●女性が就職する際の不安解消へのセミナー。 ●資格を取得し市内企業に就職した場合に軽費の一部助成。  
●身だしなみや心得についての講習会。 ●家庭内でのワークライフバランスの推進施策を行う。

### ●防災センターでの新事業の展開を問う

防災センター事業に市民の協力が必要。防災士連絡会と連携しながら施設の活用を推進していくことが必要と考える。

**答弁** 自助・共助の防災意識向上に防災センターを防災学習拠点として活用する「我が事・まるごと防災プロジェクト事業」を実施する。防災士連絡協議会、市赤十字奉仕団など様々な団体と連携し、学びの機会を展開する。

### ●発達障害の学習会の現況を問う

親世代や広く市民に対しての発達障害への理解は大変重要と考える。市が取り組む学習会等の現況を問う

**答弁** 学校では研修会を通じ発達障害の特性を理解し本人の持つ力を発揮できるよう指導に努めている。  
発達障害の子供を持つ親が経験や知識を生かし親の悩みを傾聴しアドバイスするグループ相談会を支援している。

### ●生涯寄り添う 障がい者支援について

発達障害の方には、生涯を通じて寄り添う支援が必要である。市の施策の現況と、今後の展開を問う

**答弁** 子ども発達支援センターによる支援に加え、のみ子育てネットワークと連携し、交流の場「ゆるにこサロン」を実施している。新年度は新規事業として各機関の連携強化に情報共有システムを導入する。  
また、就労に結びつけるため商工会への理解啓発や企業見学など福祉と企業の交流会なども開催していく。



### ●ボランティアグループ活動支援を問う

ボランティアグループが継続し活動出来るよう、市全体で問題を調査し解決をはかるなどの支援は出来ないか

**答弁** 市全体で課題等の情報を共有しバックアップできる体制の整備を検討する。

### ●介助ボランティアや介助者の「のみバス」を無料に

高齢者や障がい者の方々が気軽に外出できるような支援が必要。介助ボランティアの「のみバス」利用を無料に。

**答弁** 市内の移動は「のみバス」の有効利用と維持を図りながら、多様な交通手段を利用する暮らしの有り方を創造し支援していく。公益性や活性化負担の公平性に留意し、実態を把握し必要性を見極めていく。